KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black

特別
へ12
4582
3

八

辛
下

平治物語下

さぬきの国へぞ流し奉る。義朝は、海へ
うちぬきて、義平は、ちゝ、ちゝ、ちゝ、
道ゆきもとゝのへて、
とゝそたのこさいしやうふ
ひろうしやうひあまをいたしまつる
ひろうずとそうしたてまつり
こうしやうひとそまつてこんぢうこうるまふ
とばかりもそうしうしうしうしうひとびとく
ちりぬそうしうしうしうしうしうしうしう
てこうぢうこと海へしつこせられまた

はりの波風たちけるとぞ聞こえける
一そう色うすくそめられたる
あをひげ
[illegible]
[illegible]多とぞ聞てあられけるぶ
いのよ[illegible]ひろう法せいぶる
ていかるまま[illegible]すう東国
あまいりあつめ[illegible]この[illegible]
色ありしいあと中[illegible]あらとるもの
あらふくくとせ[illegible]くまりひきれいち
うとそびてて[illegible]次郎
井はさいとう別当墨色の[illegible]
まるはゆ年六人海ぶの次郎[illegible]やま
のもやとろあぶ[illegible]のるのせう金
みはさ[illegible]ぶさのとけ[illegible]とめて
[illegible]サよ人いと海[illegible]海[illegible]ひく
[illegible]ちろ[illegible]一[illegible]
たる[illegible]義朝はちらられ[illegible]
[illegible]やく[illegible]頼[illegible]の[illegible]源
[illegible]義年次男中[illegible]大[illegible]進別長二男
[illegible]佐彰朝佐[illegible]或[illegible]大[illegible]重[illegible]
の[illegible]郎義宣義[illegible]佐めめ[illegible]ぶ兵
衆西信童金[illegible]九とぶめて[illegible]
きの勢ゆ[illegible]ゆちられ[illegible]佐

頼朝公いとけなくまします
いまだ十二ものごとに御目
をうしなひ給はねども
やはらかなる眼をもて貯
給んとはせいるうちとれ
の夜篠原にふつと鐘を
撞給ふ
頼朝公仏義やはらかに
御目引あけ給ふ
見てしるべし
毎月十二月廿七日の夜ふる
ほどの事なれば
ぶいふとこうもけまでも
ぶこ踏うちのかぐふりあまの宿
つきすぎ宿れものどもひろひ
いろはとこげしいさ海をを
ちうとたがういざわらめんと
て二百人地さけすぎ三百人さ
ふん法円さ引ぬとこと
らもきとりてうちかけて長刀ち
てうちといで義仏丸と見付け

こそまうでつかまつるべけれ。しばしとあつ
さしければ、義人おのおのとあるべき事なり
とりあつかせたまふ。義人とそなたをと
ゆるしたまふ。けさは若衆
作れいさうぶの事きこえそむりん
やこふいてさあり
てはをとこのけ。なほ申されんを
ふびくちりのそだてたまへ。乃
ちもんの事すれば、をんなをつかを
申事申し。易者あるべかめる
者をまうさしめ。御子御使わらは
をはとりしあり。あけてそとを
せたまへとそいでさはちうんとまうけ
まいあり。きやたうふとまうせいで
こはせてとそあづまとつい
ちうがうてひきとをさうと
ちふまうひそれいまつひとせ
しやつづらびそうこまつくきうを
ふ宿のもれこれをんそまうをと
こきまうちうあるとゆと
とう矢をとりたちよりうれをさぐ
ろせうくぐみんけらうて宿の

中とけせすぐそてあとのうち
いく幾田共清ゆきあれうち
ちりのとくこうれい西清ものび
ぐ志ちてたそくこうぐ作ねきて志
ア落ひ軒名とうすいふいあ
まそうこせあ西いねぞこせられ
ハそる稲しりとてれまい
らせくありけうぐそてやまさ共
まそもさけくうりかぐふか
ぐみの志西くくとこうあてかうねあ
ひつさいいせうぐあうあてそて

ゆきまくくハかまぐ作ねあてゆ西うれ
とかせハろねいふふまてえんぐう
けうぐそゆきまくくハもうあく
ふぐそしまる稲ぐうとてうちとま
さいせあう志西くあてぐうあんれ
の中ふうこあくうんとけまうう
ううとれるふぐんもげきうしく
こうるこうてぐうあれ全うう
てさいうくとかされうこのねる
ふう志てげあていうれうゆこふとた
ぐう西あくくふさてぐ稲とあこう

とぎのさまひけうあく法ちやうさ
まてそうこしたるようこしたうちうこ十二さ
ふるりひうものにはこ海もしま神ちう
よいうしひるくいに義朝ハ十ようのうち
大金いくさの大将としてそうまに
せんまうりうのとうこそまうりうはと
とうさうれうまいうまれうまいあ
まうこいてこうち新勢ハ十ふうりうそ
ありけうよりうまうけいうまうのみい
うもはうこうはあうくれうまうの金の
大勢うふうにとうそうこうこうこ大うまう体

ねうりうさうにとうこうせうくかこのこあく
とうまうこうまうのせうさいてきかうめて
まうりうきうこせうさうよりうてはうん
うそうのこあうこうりうういこうとう絶
てふかうこうにとうこうてはうこれ当
つまはうふきこふ山あいうこうまうこうこそ
かうこうこうこ十二月ハ八日ハうこうこうこ
富山うこうこ風はけこしこ見映うこれ
ハけうこうこはうこうこうこうこうこふ
あうこのひこうこはかけうこうこうこの
むうこうこうこうこうこうこ富山うこうこい

みかりよりの池のぬしとてもうかれ
ぬかりけれのくそかの西行法師は
四国へ大夫進のおくりだに法師の
うぬきねとてもめふてもきう
ひうちいぬ富士中あそひさす
てけうりけれよ法師作れよとて
をそれすまひとともちはふまられ
うしはねとのくまりの頼田入作れくそ
はうちいはせいきまうちひよ
とをきまひうまぐ立あつり作れ
はりはいはやうはねとよ

びそまつまどうたうひちり
られくまうて結ひすとりれはれ
ばくまうそも頼朝といはふちかう
ともうなりひつふかりこあてさて
はくもうりふうれあはうう
ようれてきふうりてこうは
う富士中ともむりくたうはいう
ようはうあうじきうう義朝いうそ
しうふう西人まぐいてうれみち
ふゆうんうそうとでふまぐいくまふ
ぬうりは西行大夫進とさそ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

進とありて一所にそなはりくらしてあり
かりしに義平いかゝ思へるやうは
こゝろせんのこゝろをもつてわ國の
せいをもつてはかりてもかりそめ朝臣はこれ
をもつてうい信濃氏どもとりて
かりそのかりをもつて義朝をあなどり
をはしけるものをとあひだてのかゝしん
をもつてこゝろをもつて一所にをはしまし
ちばのすけの代よりうちんすのふの
うちひろあつまとのをひとれいこ
人のきんだちをそなへてうちと出

きたりけるかゝ出のすけひとたゝ進
西原をあいたるなれとゝはそもどるさ
みてゝをもんとゝはけまとうれいやれ
とゝきとはをもりてうるもひてお
ちうちまひとりのこゝにに
ていけくれうちうちせわ朝長も出
らまたれども新下うそうすとかぬ
をとあいださの君をとゝ主のさんあさ
どいゝはりてゝだはしれおば
人ゝでうくゝとそんてかうはいう
てゝとゝやされうまあゝれうなな

ふるのゝ[illegible]
ゆあらじ[illegible]
こゝばてさ[illegible]
なぐさ[illegible]
うるはげ[illegible]
ゑのりま[illegible]
歌のてゝ[illegible]
まいせん[illegible]
やされな[illegible]
やせとま[illegible]
やれゝゝ[illegible]

とかゝゆゝふゝ[illegible]
ゝふれそど[illegible]
だとれて[illegible]
けんの合戦[illegible]
時しあう[illegible]
ゐゝとた[illegible]
一ぬゝめ[illegible]
りひと[illegible]
まいゝそ[illegible]
ぬんひの[illegible]
ゝまとゝ[illegible]

てはらびとうらんときこえけるは
あまのをとこのあてゆうしんたびうと
見えてまうていうふうにめとばらせ
むとて三のみぎてのかのようつ
きこえてきつまい海ふこるべき
あいあいどあやりるものうなるる
いさめんうあるりとて方けとなる
い羽長いちうぐらいへうひあさそゆ
ううんれさけすあてきうてかうう
しうかうのかいうう多ちこのう
いあるいてひとそうけうしあんぐう
とうこれうまいうしばあけく
入るひかりはこのうてうびうさ
むうるけけうきあけく
三ろうしとひうこうて生のう部
あてうはうぐうのあうもうふれは
きてうせうあてうてうて羽長と
ううれるるけうこうのうれうまい
一ううるあううれあてうさうるく
はりはけあうこうあ能宣高とい
三あううてうれなみぐうどうぐ
けう生ぐきううのうひうれい大歌

ゑぬまへふさいりいそぎたちうん
きこしめしてゆとうとせ紙ひ
ちびうるゆとうてきうあくまめて
まつまきたれいうい遠ゆり始終はあ
うう御ちとてとくちうそ
ちくたのとて出のうとうちうあ
ひりのごもばうとうきうあんの影ふ
ちうあ家ゆとうあうとうてもう
ゆとて平家のぐんうむるいれとて
二三百人をうとせうう作後或うた
夫ばうとみうひばせんどふ三げ

ちうとうらいうせんとてあう影ふ
けうとへくるれもきいぐうちのう
ちうあ義羽ばちうぞうせきれそ
このきうてぐうふんちとうて
ひばちうれうまいあ宿のうれちゆあ
るぐんぐのあ軍きうへうふう
ちうとんせくばちうきうあうば
ばへくてばりけてんうちうとて
のとうるうせへばりてすむりのぐ
もこへいちう義羽ちぐいとう
ぐばちうぐふかうちうんどうん

どうに是をみるとそうかのうとを
さんくるまづりすてそこ十文字より
こうり廿九とやみ重成むらしくるう
みけり頭をくくりとうしどうかのうく
とうづりまれいくれとも三こどうびと
をいてさげくるすてそんうりうよう
もめくもくにかうのれ長者ど家
とせうまもあけうれ大弘朝臣の
はうふさいりまやうじとあけてうう
入りに今までざるまうとうてそわ
とそうねもきのはけんてそまう祇

ふもりをうりうつりうあうりうあうりう海れう
さてふんうつぎさいくせうとみうまひ
はうふはうやうやうやうせとおうがめうれ
まれみうとうてうるみどとうどうどう
ひとううの野とそむうきうどう
とれうそどうはは堂提と仏るうな
をとうひうそまうつうかうかどう当来
仏軒弟のりうはうけうりうそあして
まうれ言のやるすてうれく正清い
ふぬう金堂九いうきさめうしうまん
うりうりう弟すぐ弟人中とま

よとれるうぐいす小関のうちにおりゐるを
て小年といふ山寺のうちに里へまゐる
ひけるあるしのもとなるふこい
えのあれたるくるまらうきたるに
家をとりてしてはぎ男ぎ物ざめをあて
きしかをまはちとやうちとらへい
けまとれば山にはんれのとしめく
はちとはちふせんはよどあて
とるのはひそとのへとるばあまふ
行ごとたるあるとてめとして春ざ
ち部屋はちはちられけるぶしつる

かりはひるかりはぶ雪ふいそうみび
のあるこきとりてそまりて年高のぎ
むざんなるをうふあづくいやあ
とれば山にはけてはんやとらへはあるぶ
うきるのひそこことものびやとそは
きくろぶかるをあいそびひとや
すいぜんとはりひとづくひまひとこと
ろよ山里ふうかひ一人ありろぶすふ
はくを来はれとはえとそまつけ
つとりてこれをたるれ春きしてはと
うりんかとこれはれ在まもみさまりび

うちいかけつかまつる者をあつてれ
もてもてなすぶしにうちをれさせひとら
で平家はかれ者共のはのくらべ〇来
せたいぞきこてうちなるぶしまふうを
あつらとてこれはさぶいはうぶしまふ
ゆうすとてくぐいの海里にくぐり家とる
さぐすぐしとうけ給りうちうさあつをせ
ますいげうてうちものどせうもんとう
ろうとけどのこれなりきてたまひいの海
なるあはかるとくぐきうれうちうて
のようりたんちうちけあれのとうて

ひとまと報羽とたとはけうきまうる
ぶりのまうこひくきうそうんぐもし
ねうくぐもかれ付うまうふうをう
ぐきいうせうとてかうもきう
ぶでまつうぐ家はいまこういを酒
もうあうあはくうまつかうをけ
きいんぐちうまなうぐふう
平家のうういやまもくはうと
はをうのくいうぐうきうぐ家をう
きうはうはうゆううひいうぐせんとのうま
うういあうぐあれいうとうてあるは

ふくろうとけれとそこてきとつうとを
のごとく板とうちつけしくくのさゝけ
もてゝもこゝろしてゆやうしてゆうろうを
すけの前をいい情大意落ことはを
まつこと仏事まいのうれうぞあく
きれうやうそくこゝろうちありごあれ
うちをぶりてんしゆうもそさうを
ども如一人しみしばりけをいこれ
ふもうゆうさびとてとるくうこと
出くそのうちすけれといぐうさいう
せいげくへとうあじめられんぞとや

せいあうとくへとのすさそこはすぐさ
もそふかるひとまうじとそあうひすぐ
こふれうこそまうひまうこうこと
あのせこそまうひげうとれり
けうこそのまうそやうじの孫うて
うをあひぐけりをうにふせさと
こゆうこゆへうあけうのまをくへ
ひこそまういゆやてううれは
もうふこそもあうときてや
さばこり孫よ新勢もいのうれうる
ふうもうゆうさうこそこれをう

伊豆の国のごうしてサの年
のせいざうとそうけれ井ま源氏の代
よりもしの内まびばうらいとうづい
らいしゆ年ととめてそ十よう
不とはりうりうまけ人人ふれ
らどとうやうの事とやーづきさ
てえ秋ごりとへいせのひとれい頼朝
ありとれまへいはかきまろこび
和文けどんのはまよとたそさつう
さ海くよりてあいせうろう
かごふかりれ有福田とりてのはひ

ろうういだうりまもあくかしめてま
はるれいるふりごこれうはりれう
つへつどやはいふこのはへいか
まぶりけいわのとれどんうと
りいはいいどとうりう古山法師よて
人ぶえうのりのあそうたのしせはへを
りせば金堂とはつうひあてみまひ
ろうこれしう海とはあてはりれ
けへつどやはりいふしのま
きすへといいどこれすていそぞうたる
ぬりれはかせとふうりうぶきとそふ

舟にそうしてゐ
賀宮にまゐりまゐる
人々とのきたてまつる
ぢんちう一人さぶらせ
とぐしけるこうはふせきすつく
ぐうしゐとかぐよひめと
ゐるもげんちうさうあやう
みくらぐれふてひはかりて
ちはとくはひひとりれはぬふ
ばくよりてぐうしゐ弟人ちういさい
ぬきてそうあるすそて

けうとせうさうあれとちまま
けうふゆきぐうとまてぐうありといふ
りうかいこふひまぐまのあるあやう
くれなぐてみんといふけうを
きうぬ色うそいてぐとぐいさ
らいとくのくよりてはらんせすくく
ちはうりぬ実れのうもこ二人てを
けうてまぐまとりのけうはぐふ
人をみのふとちとのを
うりげうはいうれぐ人をあてぐ
ぐいせうはうそまうけまもぐいと

なりひらのてをるゆかねはらさをのそ
ふいとをきこをきこはるをはるをはるを結
たづぬはかりのものもれとものこてこぶ
孫たづぬ木代ゆゑはけこをろをれくれ
をんこらるをこづいづきれうれめと
うんとかうもはひ結づこひまし
さしはいるしまづいるづこうをこまうん
ぶれうくくをんうこいひこれうれね
ぶうしきうめうめうだぶみをはうち
とあてこれこまづいをうをいこづれ
ア　いぎまづいをんこのうをんうまづまこ

らくんぞこをうこうう関やの四うつこ
の人生くいひこうこうふ弟ふさまのう
うかの八坊ち結りんのいうにあをいうち
た二三十きあこをこうづはかりづの
りれとたのこてぶあるみこてちうん
とふうをはりひこ海りづくくこ結を
こて三づ木をこうのづくこうみこうる
ちをこいこづもいちきをこうづず
海をこ八けうふうしづこうるみあふ
ぬ事あくこうづも業木をこうづこ
こやくこてをいこをこうむりのふ

あくる二月ばかりにすぎぬれば
みそこのちまゆみ
とけうあつやうかふりて又ちまこぐ
ひじどんと申ひとりたくはひ
しふにさうれいあつまりて
漫図知多郡宇津海へそつきあけつ
四月ちうじしこくおはりの家
人をすりうまぶだなるまとれり一ち
ちうしゆうまつてあつまりて長田ぢまを亦
へいちうまさまぐくふりてありきいつせ
けつ行ちてみくく幸ひをとりやうそ
出ぐきうしみさまひとれいはそこ
ちうこ三百はいくひをさせひてこう
はかりのあとさはくよりれいはそこ
ハとそは遠ゐあり長田子見せんちう
京殺ちうちうひとせくさそは分とを
東国へちうこそさうちうこさうちに
てうひ屋ちういくせんとはそこいこば
京殺ちけふ東国へちうてはりと
たちうも人ハ形とはけとりぐ人のちうる
ちうさんちうもちうそうそうて幸氣出
りんまちりいま義朋の西伏一三よりの

こさびをりうさうず、南国すりとも
海りうまうそんまるうみそうそ
ふくろれとひとそれきそふまとまく
うけびきとそはふやうずいくそゆど
のるへうそまつ橋せあらいみのとと
あるゆうろうる大ちうれなうそ
みくそ海せ赤濱田之郎ハさし
てあくけうこうづ強田をとば
ちふうびすせ酒とよさせていくさま
やうとうせをりんりるのねう
いれるうこうてんつと出んとこう

とけるまうの口げるうばしひまちまよ
けうこうとめうう平安四年といでい
ふそそそる美名うこれすひあうこさ
きはちるいはちうそうこうこうう
うむで酒光はは師と金丸とを
とうふいるうるの中こうあ
むうけうてこうしうんどうふ
るふるうんぎこそけうそのぎ
こううどそこれ八日湯とうこさせ
長田四郎よりいるはりでみうすず
ぬ伝ぢうこさそはこうこいらあ彩あ

人てはなかりしかとも
所のよりとてやそ湯かへ今まで
領田とい長田ばかりよりもて酒と
もろ手賀とていろそとて湯之
いをはかりとけとり糖せあるを
当東濱田之郎うかいてまれ
金丸方とをはくれあるにまい
ひとそふらけやと
めりてはくえとせよ人なな
きいのよういまとうまあれ
ゆるせば金丸いふ人いるきそとて

ゆとそとをはくれいを人のれ
とをとちてはとを入あるくふて
まくけるを糖せあるむとくいく
結七当東濱田之郎方よりく
つきのまくこれはくけまで
義弘清はまきを金丸いふ義
朝とたいりこれとをい
ごれはとあて年治二年四月之日
はまくはあてをまを金丸
けりとを見てあくひ
たをくをはあてこ

人のぞ一ぢてにさうあせうかま
さびやうへばうときてあふうちは
しやかのかとうてさうとうあ
めそあうろう抱とそはてたらて
きうと出んとすう方をはどうげ
もんしやうかげしも○きうまうけく
とうもざさんくあせうれい安清を
はわもにさいうはとさいごみく
かうのかく同年十八そうせよそう
平賀入宮ら義宣ことれとやうひゆを
感とれてたうと出うまうれうてじう
りのとうかうかうきうよさいきうまで
海をんたうと出くく金ま丸よいうあと
いつ坊感しううれさうせうひあ福田も
ううまあいてせんていつ海元いさは
ら長田めうくしてあやのへし
ま入くれた長田いふげてうせようさ
らううちぞうせうてうあとせに
さんぐるようてきうれいはりそとして
はりのもうせ八人さうかせくしわ
ぐうと入むと二もき川いうう
のうくかくめよりのんとよりうてと

ちけうげてきよう
わとんせどとや
ゆひうん酒をいむしにさけさよ
けりてそけせうう 鶴田ぐ書女ういい
うう山事ときて三人して三てせい
ゑてゆひうれいかいふそうこあ
られ一人と人とけげうれげ三て
すうふとよびうまざうれめとゆ
しうぐいうしいなふとけむきあれい
てうう出ぐうしいるみなれそ
ゑてとしくけきぐうそうそうれ
むみ自なうれ場みげみうれいそ

ちぎうしうわそうげさうぶわ
こなれれむまうしうさせう
めうてなふうせんつまそゆんとて
鶴田ぐ力とゑてくゑりとなく
うりかきさゆふたとれそれいうれ
うう人あけていぐ生年廿八みて
鶴田ぐ三ぐいふみうそうあるげみう
ぐみるけう長田ひけうとゑんく義勢
うう人そもうしむうよれと毎
あせんなあういぐせんとそうげき
うれれかひぞううきうのれ世前

織田ぶくびとられて
ふかりうづしやうあ
とそおはのきうしとげざいのむこ
ととうり長田まやうじんぬたるう
れぞ人これかけうる吳國のあんろく
うんやうきひとうしのいそまうま
そくあ蠶ゐうてふかうるうれ
ぬ義朔吉保えの金義ちのうび
とうう平治のつしい家人のふかうと
てううれの忠敏おはるうとうあ
ゆくとあいくあんずむそ

ろくくとそりはけうちうかぐふ原
えいとれとれわぐかうれ金
丸みやふのがうとれりぐ三西志
ふゆきぶうとやまれいみやこと
やうせすう時あんぢとけひそう
ちうえんげじとんべうれかうきえ
けくそしうそはうあう東國
うんとのがせんずうそはさるきうの
れあひぐてそのとれとの時ぶ
れ伝ぐれすそれうそううひふ
ううめそぐうたうん時ぶ弟とそ

ひとんずつ　ゆひつけ　むかく
みちのひめ　ふ　そいで　せんれ
ぎるげさけ　いと　わ　そ　せ　さい
ゆと　ひと　そ　みさい　牛　あと　そ　さ
いにるこさんぐら　まし　く　ら　牛
あれい　ゆ　それ　で　せ　び　も　そ　び　せ　ん　ま
よなる　人　て　金　ま　ん　ぬ　ぐ　た　て　ま　と　り
つ　さ　て　ち　ぬ　で　ん　い　び　ら　ふ　ま　ぬ　と　で
ま　ま　と　ど　て　さ　い　ま　や　と　る　た　さ
ま　人　金　ま　ま　ど　ま　と　る　ど　て　や　け　る
こ　れ　い　そ　ぎ　こ　ま　れ　つ　い　て　る　あ　と

ぬむひ　ひ　さ　い　ま　ま　で　と　ど　く　す　し
こ　そ　ま　ま　て　い　こ　ぬ　や　て　て　ま　い　で
あ　て　て　ま　そ　か　こ　と　そ　ま　ま　ま　れ
ま　ま　く　伝　国　七　通　ま　ま　ぬ　ま　や　し　て　義
ぬ　ま　の　ぬ　ま　揺　と　と　ま　い　て　ま　ま　つ　ま
け　く　こ　て　ま　で　し　く　れ　ま　ま　れ　で　ま　ま
こ　と　ま　清　あ　人　ま　ま　び　と　ま　ま　長　田　ま　る
の　で　り　平　家　れ　見　と　る　ま　い　ま　ま　れ　ま　ま
あ　か　り　と　て　長　田　い　い　き　の　こ　ま　ま　ち
ま　見　て　ま　ま　ま　げ　む　て　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　義朝

信濃の将門城あり。あひ地ゝ
ぬてうてきと国のうぐれあもうぐ
とみなうふうしてさいせうつは
義勢の所領とは一所のこらずたゞ
うゝまうしたい領国ふくらう尾張の
国とばうゝうぐきこそせうそふれて
て手ばのまゝとなりてはぐでいごうあの
いさうんぐきとゝうれハ清盛のくまい
うゝそんせいあんぢざいうのもせる
あうとおとゝふとおるのうげざ
いのむことをうゝうんぢうれぐのぐうう
れどもてうてき
とかうとまて一国ともうあうう
それとぐうゝいちうとうぐ
とゝうゝひうゝにうきわくせう
ぢうれいらうぜきなりとそいさう
うゝとうあうう武蔵も
うゝうきゝはあまりげもうゝ
きれうゝいうゝあうれあとは
我ぐ分のうゝうゝ運のうきたゝ
何うふあうゝとうれうゝうゝあ
うゝうぐいのうゝあうゝうのうあ

ふやけだてゝとうとうしてたゝかはの原
へ引いでゝかはの二年のゆびとゝもどき
ゝびとゝもこゝろをそもきつゝとうとう
こゝもとられて長田はひとりとなのきいて
いそぎあへあげてうちめんぐくのふぞ
はぐゝけう天下ひとりとゝきて
源氏世をしゝのちはひりのちりぬる
やきふゝとうゝなるあくれいのち
ゝゝて長田ゝそとんでゝとゝまて
ぬりのゝたなりうれ西海を義平
ちちぜんれちふあとゝもでちりてな

ちゝけうゝはりのうゝこゝて義ことを
うゝれのひあゝゆゝふゆゝたた
ゝゝ平家一人なりとゝはやのて
さゝのれい彩ゝひゝくゝうゝげやゝもも
ひて生羽ちうゝでゝみやこのゝり
平家と彩らふれゝ義朝のゝびさ
ゝ郎後母はゝの後人ゝちうの古ゝと
ゝゝのあり平家ひりのゝてあゝちう
ゝ平家ちうゝゝりゝあまつゝ
ちゝよゝまゝて平家よりゝこゝちけう
ぶ西源ゝよりゝあひゝそゝちゝいふふ

むづかしきことをいづくふあるべ
とのたまへば方のとそでうちに伊代
よるゝんかりぎぬをぬぎて平蔵よりも
はるかまつりは西源太のくまひろまる
さて日来のうらみをはらしたまへいで
うちすまさりつゝ物ぐさけれども義平
にたのまれてよ弟のうちに二人
なりぬ平家のひとりとうちもりぬ
うけたまりとめてせんぐんとうち
にすべし義平分下人よりとそうち
ちらばはなれ出はべりのうちの

とりもちくるんれわきふてすゝそ
弟ひろれかの重ちかれさうち
無勝なりまぐ方二人うしのきりあ
るれいてひるあるやどい
かりあぐこ平うすまるかりぬ
の地とこなりひはけるまとい地と
八幡宮のうまひろさはひろう
ゝばつきかゝるまる下人といは
とこいちわてぐんりかりぬひ
うありさはしせるうちまと下
人みて下人とそふまてふいは

うはうしてよかうんとはぐくひひ
たれかあるの時桜氏まいりとまり
こうみてとゝ西海道のまへのぐさ
いの仮とゝくうりまの時桜氏はい
うくうらぐまのなるいひとうして西
海道のまへのよはいとゝきはまへなるぐさ
いのいひとうして桜氏ゝうてたれい家
自の地こゝをやうじのもうしたれと
見て山りの海氏のらうぐうきくこと
西海道の平家と称らうわて用こさい
ぎのまへなる後日のきうきてあり

かうべうとゝ海氏のうしりのうの事
ううゝとゝはゝばゝ西海道のゝそ
あううのうりとゝはまゝて新海
次郎ゝのゝ海氏ゝ三百のきゝて
三条為兵ゝゝゝゝゝゝゝゝぐんぐ
のはいすうのうけゝ海うゝのんだゝて
海氏ゝ海氏ゝいゝゝゝゝゝゝゝく
くはむゝとうゝゝれい西海道ゝまゝ
のぐうの海ゝうて石切といはうのうきて
桜うまゝふまうりてゝみのゝの義平こ
ゝゝありげんぎゝゝゝゝとゝゝゝと出る

[illegible]
[illegible]
[illegible]

大原さんの原前生の里ながめやらるる
ものこころ
（生）和歌山県の
とくひまでうらけるあがき
月廿六日に西海を初めてをるさ
ゆくとたのこと下さりて
こうまひろうあり
きくさんごもさんびろ
難波ひろつ
て
きの四郎のけ
けりがふ大坂より一町いり入くる西
海道かまくらけうこそとび
ゆく唐のさうこけりそれふ
むこれこれこれとそつこの野よ
ゆせで唐つとみごとといふ
りありかりこにてきあるにそれ
て
どふ西海道のはらけりとこの
ゆるこいし
まりこいし西海道はけ
みるりこの義経にあり見る

むとそうんぐよこさりてぬうう鞠は
こうがけるつ先つ西海こがひるふ
きてこうふこん鞠はいひろうふてきこ
てとうきこりあつやりのれとくとす
初これこうくりの月こ西海こようあ
ひくくここれこうこひのいまこ大百
のつ坊ふ庵ふしめばまてひころ
くこくもこうこびつくりのれ坊りく
坊りあひてどりくふうこさこりに初めふい
けどりこそまつるむひとようきのせこ
は鞠へさいりこんよこもきとへうま

義平ねどのりのとてきあれこそ
こんふ坊へべきやこ庵のうとそひい
てきふこいへいりのんへいきふいすぐ山そ
へんそまつう清盛いぞもひいふひ庵を
むいこ糸ふくしきこそこ百よきこぶ
うは庵ふりておけふ関山そはうとば
うのふせいうきまこうこぞとのきまる
西海きのざうこひてみまひこうこ
吳國のかう明に百きぎとどうすとを
も宣つきあまこはかうこそようちまけ
ぬ義平もうむつきあまこちくとよ

だいとうと人をもうしつきたてまつり候
かくてうあんどれつてう方のうへふ
らんどろうといひろうる清盛のくまひ
ろうを義平ゆゑの事ゆへこそ
らくもとをしてゆめゆめしとをもく
きれやとみさんてきたてまつて
てをうてうへ(をさ)いでをきこゆる
あくげんでさきをいるやうにて足
ひとて京中をうちまはらんと
をもひ西海を投新人をもきうふ
はげんて金御ゆうしんとをふとをもま
ゑ(ば)ばそのさに為義源
をもうきひろうあれ平家の
でしをもはげしめでよりもれで
のものと日中よりはをうてこうをそ
に情をれ保元の合戦よりあまる
きうもしうどもをもうい山の地をあて
河原をてきりしうあれ清盛の
をもへばをもうもう
けて中よりこあうしてをひと
伝聞といふくをんてを知せう
まてかうをうきめはんうぞをもる

よ人の雅楽の三郎博雅とかいふ
きてすまのあまのすやらんとそうちぬき
てうちけまこばあまをうまのふどあい
おぼしうり帝のようひうぐあるの
をとれ半ぞ義平さとふ
ずうぐあんぐぐきうぐうんぐきうい
うくうれうとうくきううるばうり
うふういけうふぞ雅楽はいうこうば
ふ人のうりてのけうふいけうてんや
とひうれい西海たたうそういうぐ
とも百日ぐううるいうぐうるうそて

海とう帝のうさんずうるのとうそて
あうとせ移んふぐうりうれうまいうん
ぐううるうるうぐふうとうまこばいうびいま
うるゆうりうくうけう年ぐいうるう結
ふうそぐうりんみりけうれうう大宋
弟休彰勇あうふうるうたうのびてゆう
くううう三河守軍威はうるの国と結
うりて移年宋東宇唐とうりたいう
うぐうれけうれぐうるあうるうの三百
へけう其東ゆううんと二人とあうう
けうにの地ふう長うの亂うたうの東の

とけ侍ぬ。まことにひとれ分道
八幡宮のさとつかいのうの道の源氏ま
ちくぞんすりいそうすへ。こと物語
八宮清長ん家屋とそ。とも。ものと
米作侍ぬ。これて。ものびく。ぬいするう。
いとと。ひとれ。ぬい。書文れ
ぞんのけるさにはいりとけれよしよし
ぬ。そんぐして。まぐいと。ものん
とものふとろよ。幸氣のさつかいで
ものく。作侍ぬと見とそまろすさ
ぬもうつてのたあるとつるよ

つてかふとうひとりすけどのと
けとりもり家清やで生りうを
いとりの姫君もうれこ
ありけよりりたけとけくく
なかもでしけ名米作一百
かくうのりぐしまひ地
ぞうげうまとれうとのれとれ
わとれとぐりよりりうさて新人
のぐり幸氣のげんざしよとれ神
あありとそやぐそしのきよあげ
けとうまとう清盛在三米作侍ぬ

しゐとはたらいれんの毛げさちに
いげくうあうぞとのうさんいの
かうてしあうせんとのうさまもて
めいはの長うぐとふぐいらんれ
やうれうれい難の清らつとと
主ゐあてゆいぐりとうえ三郎のとけれ
ゆもげきうあうたうさいうせよて
のの人長うじうとき源氏宇代
ハ方と宇家のうえとうんうて
口情うれ作ねうきうれるふとも
義弱のうんぐうあうたゆとれハ宇

家ハうんゆすんあるうん時げんぐ去
せるいぞうあまハなうあうぐうを時
じううとういうせうあうぐゆひうれハ
泉あうとて毛げきうとなる祖
ううううあうこれとういうせんか
どふ宇家うりうとうあうはゆん
あうて主ねうしとうんぐうとうう
別のうういあうぐとて毛げううれて
ううんのまううんゆうりけうとあうきえん
て泉あうとういうせ主と三郎作ハ
かうえうつうす毛げきういうふとハうぐ

祭られ給ふ事東作あるべきよ
と申はべるを大臣も左こいお
ぼしてうちなげきうちめくらし
ていとどなげかせ給ふ事ども
さるべき清盛入道作の出
かくおさめとられたる事作の色
あるべき事ども作の色
とうまとのひしくぐ湯水をだに
いまは給はぬけうまとられ大臣も涙
をながしたまふにうちなげかせ給ふ
いのちすでにくるしくて
元とともにひさしいせ給はずあるべ
き事にあらずとて
ものさわがしきあるべき事
とけていくつきそひたてまつる
めのとも涙をながしひ
けるとしの二月一日東宮入給ひて
うの宮と申すひけうめふ屋
をいとふるゆゆしきに十にあまり
ぬとうけたまはりしかなり東宮の
ものとも涙をながし姫君もうち
せまりとのたまひ
大臣殿もうちなげ

あさいぎよそびの孫にてさぶらひ
えばらびいふきんとうげくとうる
多びりの枝のりあきふとそはさ
うさんのまびいとうあげいるれる
人てもしゆとやらんとそんのはと
はまていをきてのはは君おてそはとと
らんとそはいをんびもあれとの孫ばう
ちちまびゆきてみまいを和文けびん
みてそはちしけうむるしきまびひを
はちしふかれいまそて常家へうをりな
げきうるしゆえつてるむれうるは

ゑ八中之の大まの進のはてうう
うまんうまうやうしあるひうう
はびわさかうびはりはまたてよ
つうしかうの及みてとれてそうり
ゆううびかしいそてうみせんとれ
ぎさそれ毎大知さ海くよいあ
うれ毎のびとやうまびてうそ
みしにうてかうの及のびれ知
他事うくうしかひてそううま
さてと兵衛作新知のはうさ海うけ
う海りうそみくしるまいやうぶはさ

ぬんすりとそこもとに水うもどもとも
ふてて池のあるところに岡部
ふ、こまつい二人つれ二月
十九日の夕方にて作れ岡部と
めてわかとなりのさとにてて
さいしやうとみくまの岡部中書
れかうのかとともにめさいしやうに
ぶいはやうくうかたひあれを
ともあそばげ今日仲とともにまた
ひはげしひとつとひさいしやうに
さらはうそはゆるすれはるとの

ようきこそはいとけなのさまひろう
いまはよりはりのい軒朝よりはさうて
ふりとあるべきうぶれ二月より毎
でんよとうしまりそうげきまびかぐ
うもしにはうぶれいそこてかうのよれ
うふうすふ二面原さ丈進しうに結
ひあ中ふて正月こ日うふれうふれ
まひすふ二月七日うしで五七日ふう
でか頼朝せよだよあうばいたう
はるうとにてこふ二月ふれ
ふうあまいたうにはいとうと

げの一ぢとしさげうん金仲とときき
つけくれがうひとしそうひそてま
はくふいごうをかうろうやうはつふ
うそめがくすてむのまとをたがぬまて
じはうんかはあるどゆ間れうそうみ
ぐとうがしまうふひろあうれかはが
ろそひひきようひうかうろれい
やがちいさんそうこ言ぢはうてさい
うせうれ金れうきうひ信ゆあうう
むううとせうやしのういまうむひさよ
ろうろうそうとうびせうそまうと

きねさうゆ神とぬがて信
のようとれすひうとも世ようふ
うていうすうはゆせとういとがるう
どもかうかようすりてうちうとる
びんそうげのくうやとのをくなよ
うとうとみくさん信あうれよはが
えうすけねれんげかうあうがゆ
うきうとりもうきて色ちう
屋うあうやうんせうがふうじや
うがうくうろうてうれうあう
しうれの体れすみがしはあんを

結びとむすびきよいたりとみる
なみだとどなどなどしらるあるとれむ称
きよりしろいはいのちかたとかんとい
おがめりといねとせい作れれ
まひろいい保元年治あるのうせん
よりんこやすぐいうせりひわ又とう
これすの清まとそいこうふしひそわ
うとせりつぶゆつよとふいのちゆ
きなりとみるまひろ家清ひろ
いけの種石とい清盛のけいあい
絶毎のり軍盛のけいちわい毎のり

ひてそひしやそもしくんご一れ
殺山法師ひそしてむのを
ますしい右る所家盛おそれ毎ふ
利一りんせりんでのるのうふしば
ばけるんのようれやうのひるせるのふ
ふにけとそうくく家盛のさを
なりひいそうあきこれ事
ゆそこそんどれとりられをれを
もそれてりるこわやとのけひれ
いれいねとでしむのきよあそうん
そそけれいけのでそう

とのまぎりふ軍勢ぐあるるハ
いりきるあぐぞこのくまひろれに
七月十三日しきそうけるあるとを
りせあるなりてれやさて義勢がこ
どもいづまてもうせんどゆるそと
みるきまひろれいしのきるりろを
あふりのぐりあるまぐひりに
てはきてりひりをうけるりとを
ぐりいりせはあるれをあていのりと
りたりとりてゆ又ほりをとりるを
とるげきんぐ此人古右る助れの仰て

かぐるすてしもちびひ結びりあ
きい池なのあるりぐまびりやるふ
りのぐまりせりるぐ出藏の時てさ
らあるとも地りりたりけりう清
りりをの代りたりてりあれるりぐ
中りたる助ぐりりぐりたりるそ
りりあれ右る助ぐふりりきうい
りりるりりてりりりけうりふ
りりくりりのそりりりと入りりりる
利後世ぐりりりりりりりりりりりる
いたぐいありりりりりりりりりりりる

風ことなりしかれども道理のあさからぬまで
すこしうけたまはりとどめよとのたまはせ
でしかばそれにはめしとりてふかうあるま
ようにて作れるはしりもせぬこと
ものこそびとうばりすまとろいけれ作
よのこと三びきりとりとびとせてのくま
むかうの名東のとはけらるとうあり
ようにていのちとりたとうの文の信之
風ことにうやまはれまげたなるが古
家盛うすぐるすぐるすとうとたがうすと
さくいりいまさるもあれ

れ風ことにあるよい作文ぞう作文の家
うやうふ軍朝とりくとけ嵐盛うあり
うにあるまるとうもせこうあ海へこのくまひ
ものれかりてこそみとにあるこそ清盛のれ
前ようにいりてはうとりとされる生
いきよりのくまうひけうにこれこそ
いけれ人作あれどこうけうあり海りう
とかりかくて義朝てこそこしひ
なぐく源平の中西にうれる保元平
作あるれかりつせんこう清盛大の軍
とうけく海りう源氏とありくう

ゐ事ゆゑおのまへより中ゝ頼
朝とらいて御ゐみのまへ宮ゝ古長
清搦仕てゐんどゝ義経の大ゐ殿そこ
物ゐとゝしたゝてひけゝゐゝゐれ
こゝゐゝゐゝゐ

とうけ給りて年老ぬとて人まし
まうすれば[illegible]いはゆるとしの
ほうり給りきさらり男仁へゆき
つるとてそさきてつゝ老ぬとて人
居給ぬ事とうの[illegible]どてしるく
[illegible]ゆゝ八緒母緒よの中のそこ
[illegible]ふゆゝうれと少へ[illegible]
よいたゞりて[illegible]
[illegible]ひてゝれすゝ[illegible]
[illegible]ていたゞけ給ひて
[illegible]ゝうゝとゞきゆくを

ゝゞ[illegible]の宮とすゝ[illegible]河に[illegible]
ゆゞんゞ地ゝゝゝ世ゝゝゝ[illegible]
ゝゝゞひゝべきゝゝゝれ清[illegible]こ
とゝゝゝゝゝゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝ
十二百ゆきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
て人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝのゝゝ八ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
俊文の安房天皇とゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
代童よ八十ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちごにけうとゝそきこゆる軒
羽にたゝまよあるぞうちとゝ
耳そうちぶふそせごゝめ幸蘭
よゝひめゝふきゝうる打戸ようけく
いのちとゝとゝんといふ幸に云
うひゝゝいひゝそれあるゝやゝれ
ふゝ山茶いゝん勅使と公家使
若ゝ會稽山を中ふ屋ぶゝくか
いせんゝけうふ勅使軍ふ打屋て
公家使ふゝ公家ふゝうゝれ捕ゝこ
りてゝうふゝんとゝうゝるゝごうゝ

ゝさゝ事れきゝどゝとうけゝりけうふ
いゝふゝてゝ病人の死ゝとゝんゝい
ひゝれゝ勅使ひゝゝきゝて病人の
ゝゝやゝゝゝゝ屋ゝゝゝ大事ゝり
といゝるゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つくりかたのことばはなはだ
まことにまことにかなりて通ふ人いとまれなる
いさりのあとをとむるぜんあるべきこと
たりのほかはなし人のかりそめにあらずして西国往還
のうたの歌さくらさくらはなにあらねども
春はまことの春とかはるべし金殿の人動と
雷とかはるべしとそつくたまとされば
あるべきにあらねばいのちといふものを
つくせいにんしてのちはのちきこう
たんとはりするやはそろくくぞ
けう清盛のうたひとりはいけるさう

ぶくうけうあるうたはりとものさ
とけとをぐしたにたにたうし
かるがるみぐしこんあるうるべし
めはまんとそれうしすべ
さまひけう人さうしてきふひよ
しまをせられたそいぐあ
ひとりげきけうぷうきられ
二月九日第入ぶきれきのれむ
さぐして清水ちるんそさいりろぐの
ぜんふくりけうはれ朝音みを
のこるけさいちはの七盛のうしろ月

まつくとこそこそしたれば十三の年より
毎月一部法華経をとどくこと十
九のとしより月毎に三十三部の法
華経をとどくこと十九年の間
ごひれいをもつくまし給へとう
けこゝろふこと三分の三分をれば白
ぬたなしいなどと十九年の間の
月をもきこゝろぬやうにさそ
一ぶうんけいの人二世の利益とかゝる
とうけこゝろふいうんやうとれと
しごちりごちりそうすそ

とてそうせのきこゝろのまゝに
いのちをこゝろとけてうれしとも
給へとおもすぐしてはやをば観
音しいふあらるおがりうんあり
あけうれいまの法のこゝろをもれ
とてこゝろをもつ川ゞて神のたう
いうふうりうぐしたい源氏の大将軍
たうの義朝の男たい人すぐゝとてるさ
きまいりうとゝあくまでしいま
いのり申こゝろをもつあくのりをこゝ
どてこゝろをもうれこゝすとあい

きよ地もとけ生きとうんそもくこれい
いかりの中めやとりけまい義朝
のきんぐらとき平家ちうといば
うまつぐしとうけ給りめかれたり
地ちてゆきひぐうん地んのけうすきと
よむしるれい生きつのびてまつくいるり
との結へぐうずりとれけりい鹿の大
ふい仏像とらつて栄花と一三やう
れ墨の風よ光きい濃へのけ帝ときんや
うぐんのとまんぐてき命と秋の月り
ごとちうけ涼りれめていそう

ぐうきうりとりくおりめりこれあを
きつてりあきのびてまりくせのあり
きあるもけらんぐせりりせいきは
ちの時ちりいぐうかるあ命きふ
きて大和のりくへうぐりくゆくるりて
毎りきれたりなくくせりよりうぐん
けりぐうあ地りひと雁山れゆうぐの
雲ーりりきぐうけいりりりるりるりき
いけうきりの暁のるみぐりりうけと
るりいるりびのりりりりるりりりる
りりけりりりりりりりりりりりりりりる
りりりりりりりりりりりりりりりりりる
りりりりりりりりりりりりりりりりりる
りりり

あれはなんなんとげたるまくらを
いやましふかうけふかくわれを
まもるとそはやとりれのてはもむ年
あれをとりてこちよいぐさ三人はさ
なれんよりのしけるをどこそりり
のうへをとりてこそあるをまをけう
さしわけめうあるあるとそうれれ
ちあいわがかをけきはりそよたち
をこくみうらうかれ中納を
めるさるをとけるとそれいひうら
いはすうしゆきてひとうそ

うう所ありこれかくきの清盛の乳
母うをとを出してうこうこうれく
うしおいうあるいのちはくうるく
あうしびとひしつめてそあるをもを
ふむしのこうそたうこうあうとんく
いまううれかうこれはこうれてん
のうこうるうくうたりううふ
はくうそはは中うれをうくうと
まれうるまはうきそういひなうう
あをしけうかうる山納して足はく
みうれどこうりのうへうれだりど

[illegible]
[illegible]
[illegible]

きゝたがしもるうちあるゝ家よ
りうちうて屋ぐりさんとみまつる
なるべれ地ゝこ出くたぐいる天上け
て地さうにんゝひとぐてまるよ
せのまいむりんみんのさいまそぞ地い
ちうんのまぐきゝて地ゝこう
ちふんふうち地つうみぐもみる宮
しうれゝうゝにこゝわきゝこのの
あゝ戸よのかゝとあて三りう紙て
ぐうちうけうあうぐの地ふいひ
ちうまれゝうゝのひくゝ三寸ヲ月ヲ

ふむりんんよゝうゝいゝてうゝのう
ふうゝあうぐたつゝきゝこいやゝうて
地んふふ元ゝ月ヲうりうまうゝいせ
ふんゝそゝにけゝをでいふのくゝ海ぐふ
ゝぐみゝれふんふ元ちゝぐうりめう
二人のんゝたちよゝ二人ゝ山ゝ
ちよいぐきてゝぐにうあいけふ
きあうゝ海うふ母ゝまぐうまれう
たゝとうんゝおりふゝれよゝう
きうばうゝうけゝうゝまゝこ
一地ゝ月ヲれふゝうゝうゝうゝ

ほうとうとうと

小神と一うきねばらうせられいうぞなる
りうぐきうきの[illegible]のはのうちはたはたの
いとせのうへとやせばあはれはかうへ
うきにとうぞむりんうりれて書
みみくあうぐへとうぐてきのぶあり
あうとうりうぐめりりのきありれきて
どういうあーうそうぐねーけうそれ
うりうくくして大和国宇多郡つうう
りんのまうさけ器といふ有り作のの
あうーうくうぐのくうくうれいきてく
これうきのびうりあううう[illegible]

へつういうきはぐうあ有てきてうさ
アきうぐうれぐ毎のめこうきうびい
めびうりうせはう清盛いうぐう毎のきう
ざうぐぎうれてうきうれうて有りれく
うへ伊勢武ううげつるうけあるる
きうぐ毎ねてうきうぐうりうふ
きうれ義はうさうきうへきうぐ
て清へうてうさりうりのうけがく
きうびうりうせの行きうあうぐい
はうりうぐうつうにうそすぐふかう
りうはうびうう大和それ清へ

さてむかしの郭巨(くくよ)がいのちと
なるとうんとあふこそとてとびしに
とてあれとありけるは金の母とり
いづくまでもあるべきとかうけ
うけおろいのちあるかぎりは
みしまうけくうんの母でいそぐ
まうけうんの母をきとて地さるれ人
どもをきをとて六たうん出りゝ九
条院の母院へいとまをいとまり
母院はらんでいふ出れどいとふる
ばかりそこをとおかせ下されうまこうの
れいのちとうけんふやうとて
なるかまをのびて母のいのちとて
もうきの母のいのちとうのりを
わうけうあるりたるとけんあみ
所人も伯父に出ばいりうまを
せ母院あるれよ地ばりきいこの
いそをちふそいろくれさあを
ぶしきいるたびうを三人の地をれ
きんどのをうそくまを下させうん
いとをいをげきの中のものの
どをうびていそんとれい出車さん

ゆるされていせくらべがみごとと
とりあをくらげつぶりとそ入めけ
ふ母の居たこれをとんくらべが年
といそとろくらいのちいくれぞわ
地さるに人をすべひとごぜのいれち
みうりんやこそ切りいつよりあつりき
うりてこうびうさとんせうまふ
屋こぐやとそふぎさうりげつふ
さいりて清盛よしうりせば母の社
ちをとうとんうあよりあつりきうり
うりそふぎんるれうまんぐして
さいまとみくうりとれをとぐして
まいうりうもちの小ふうこつまくさ
いうあうりうれきさんくうりとれいうこそ
めり出されいるるまこ辛まうあづか
あそうさあ紙んどもしいぐわこと
さいぐすぐこみんとして辛家の山百姓
どもふううまでこれ六郎兵衛そよ
いうとうさよりでいく出すひとれ
ふいめんていくふびうこいぐり
ありうぐとの結びでとれいうこも
つ地さるに人をつ竹ちとうり出されい

てうりうじきとうけうかい
しうしゅうのびてたんをうつまどと
ちうちうさ母いのちうりうじ
わとうけたりうたなとけしさあふ出て
たんをうるかいなさうさきものをとし
ゐうもせをうりまげけとれうとうあい
せをうへとてうをれるうり母の居ハ法
もてきこと娘をうをせをうりて
めうとまげうしるひてうびうをで
うげさけういとの清盛のうこ一めて
母のかう一めをうるくくゆとやうを

うしんぜひもきうどうをでやさ
せうりうぞとゆうしゅう平氏ハ人を
ゆをしよりうこものるれいなさうけ
までしかうり平の坊ゆしさま
とをうをとうてをうれあうとき
ゐを年サこ九条ハ女院のきたれ
うちれいとき新の門うみあうれ
ゆふをうをうしてその中より利
百人をうを出百人ハ門うり十人
緒出十人ハ門おとをれうをふぶ
かうちぞうをうれいをうを人ハ中より

一人のれいさうそいたてまつりを
めいとして小弟たちをつかはしつ屋
きひ我朝の小野小町 唐土の
和泉式部とぞいふれたる人しる
とぞ人々 唐のきひのとぞくと
人々 百のたびとのとりと
清盛これをすぐ
ちうちうきんとうのひ
ちうちうのくもひろうさうちう 来
ちうちうのふかくそうこうそう 和定なる
いそぐるをけるにあるべくて
て景綱うりとかのこれうそのち
これをうりとかの清盛これをたうとれば
つとこれをもとめたるもの
うちうのくのひけふとれり
こうこうこうこうこうこ人の
どもをたとけるこうこど
こ人のれとうるひうきめと
人とこ人ありとれたる清
たるもこうこうけうこ毎の
ひけうこうこ人ありがいのち
をけんとおりて修するこのこ

かてうはくふいさめまきれふうすが
おさうのきんこのいのちもはをはの
めいてうしさがうきうれはをはをと
そやけうまうふうつれやけうは
一人二人すてをうばかうれあま
さたうけさをおりうまうぐうきよ
うれ清涼殿いけの種殿のうをかくく
のうまんに頼朝とうんたうけとうう
うをうおうさなきうのれうとうしふ
いうすけうさはるおばゆうとうおうく
うけあそのうまんひうう人木石あう

ど傾城のいろあるとうんふうで
といつう文集のうとばうけうとそを
ぐうう三人のうまれいのうれうとう
ふいれうう人のうはうれ部屋れ侍利
をいひうぐ日本一の美人ううし
ゆううみめい葉れ花とうれうれう
とやうぐうう三位れ大納言つう
ひ河内国なぐうれすひ一首うと
て三人いせうれうう
落きううみれあうとふはうせく
うれうきうばうう方うて侍うれ

はるみくさいとせられいやどそまる
めんあらがねあらがねあらがねあがりて大臣ゆゑ
まひしうへあるとの大臣とぞよけつ大
うへの大なる伊勢通ひの給ひうるはしむる
しふ吉俊の大臣とそあうるあるまい
まいりの大臣いそきたりいれ之もの之
へ大臣のあうんぞといひてぞとうれ
ゑうの別当伊方ゆ長門国石田のたはへ
ぐたぐされうるはし一首こそまつる
山澤すまこぐひとさけるみぐ川
ふぐりうもめうれ神うれ
とうもんそさいとせられいうあ
ひてこれもやうぞそまりあるあ
しこ澤中納言ありうすこ河ゆハ
たうへうぐさうれうれ不敬の実とぞぎ
ゆまとそ関やの程ありあくぞうき
けうう
東路とふ（むまりへみまい
海山ささこのせけそうハ
給ふ法きうひ一首うぞぞくまひ
けう
義にぐうる坊ぐうはぐうとはぐう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

うるさくこれをとりてとて
いとのうるさ。仏会にと一つうり給
てうぶうをいちうしてうんといづる
ばひけまこのごとくに澄清なる
うろひ出てうり寺僧よさうりの方の
けをうたちてうばけうさて故人
とりてはうとりはけまに清盛ハ
ぎれはひとりあるあるの山のうり林
足といてうこうれうつぎ
みそばしけうけうる同三月上旬
う鞍馬の三部稲荷へ詣つひまうり

のうり所よれの国ゑ野よつきうれ
いたまううをみいうるうりいづう
れびうたううりうれ鞍馬の三部
いうろうあくげんだうう時いづう
ありてあんちとう市ゑうをいひ
しうはいうづうぶなれおりひ
出れて地うゑ
ちうぶれうづうるいづうも西原
たまそやうらんこいひうれうんて去
伏見べこ西原をきうりうしたうで
かうとて大力とあうきうるなてゆく

かぐらあまりよいづちはくるふる
郎ふしかたのもとに立てく
みうれどもいづちもとめまつ
ゆんだりとりあきまふけうたふ
まとまてこれものとせびるれも
ものうてうたるうち新みゝ高砂
ふいづちはむゝこたてたちはて
人はりくゝうれい清盛たみさい
ぎのひ貴僧こるはよりもたくまい
とれたんあやとうもたられきまい
雷ちがりあはそうそうぞはがも

新さうりふ大原東休軒八伴豆
豆もうがわ(なるうさぎ)ぬしとはぐ
めれはひあ池ねしようきうひ
く高倉とう(軒翔とぐてて)
いまとのたひられ新年高原宗
清兵衛休ねとぐてそまう池ね
てはいりけ軒翔ともうびく
もとぐとはくみのひてぐ
よ家盛うすくすこしたがうど
あれ新のうちふをはく家盛
ぐ新りはよりのようびもるぐこむ

屋ふかくかくれ住豆國まで
とをるとそうそうとしてわたのとい
りとはるひ立秋の初霜に
こゝろぼそくなる屋しきあるよ
毎もるしるこゝろ浦世をとゝふら
ぬ人又住豆あるこゝろ
國人は稲をもあるひくうすする
まくあるかゝる人ゝをあひかゝ
むとてゆゝさまの人のゆゝしさ
ゆゝまゝとてふるゝ人ゝをうこと
られゝとびうきかぶとゝぶ

ゝのゝさまに元わうこゝのとけうこま
ひくいでゝゝわうふるさひくびき
かゝこゝちの浦ゝとゝいなゝと
ゝとゝひゝとゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝれゝて池なみゝとゝゝゝれ
きゝゝゝゝゝれ信ゝゝゝゝゝゝ
ゝれゝゝ同三月十九官軍ゝ
ゝまゝゝ都ゝ出ゝゝゝ東国に弱
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

すなはち秋羽の馬にのりてとち
こうちくばいまでは古はるばる
かくのごとくいたんやうにひく
とやうにうたなげうつるげき
うれども軍勢いとびそうきて
ゆゑさきがるるすぐさまゆきとをか
けうさぶにんのうちにはたとそ
師大尾のうちにたちてそた
ちうけうさうりょう頼羽さうこ
とかうにんまたうちてうれ
ぶにんこれとたんそ伊豆国みるすぐとう

八十里の野は虎とうりみうう
あれゆくすゑはるかしくとも
けうはるかに見えもしのきよ
こうそまうておりとうり羽は軍
羽せうのうとすぎすぎうし
ちうにんゆうりうにいるかうそれ
のにんぶ武弘のうやとて伯耆といひ
さいうせてんうきうゆうう
はやしていうぬとうるかのうまに
いしのさまのうこうりうこうそな
ぶうれううぶうゆうあはそで林う

とまりたりしを、平家きこしめさ
れ、ごんざえもんのかみよ
りとうの御ぜんにうかがひて
きとのうちへ武ゆのうを
召入てまつり給へい情大臣殿
一ぞくびみやこへ入せ給へ
きとのうちへ武ゆのうを
入せ給ふ源四郎殿といふものあり義朝さ
ねとかたらふ事のあるとしかがくらふ事のび
わくつるよい頼朝のはつりをとこ
ちへ下りたるぐそくあらそはれけれど

小たゆのふこうれあるとうをひつ
こそうぐそうるとうとうとうとう頼朝すぐ
されるひしうぐすうとうとうとうとうとう
とうとうみやこうとうとうとうとうとう
東国にはうとうとうとうとうとう関山大庫まうとう
やうひうとうとうとうとうとう長頼とう
とうとう武ゆのうとうとうとうとうとう頼
ぜんとうとうとうとうとうとうとう
てのうとうとうとうとうとう音庫とうとう
て頼信とうとうとうとうとう伊豆ゆ
とうとうとうとうとうとうとうとう

ゆきぬ　ゆきぬとかうしてゆくに八幡へ
まいりてつまてはなかの屋のうちに軒端
ぐらい矢いとぐるふあるそとはしらぬ人
はなきこゑもせねはそこしじ二人ゆき
屋のとりてはいりつふとふくゆき
めくとけ朝ぐるあるしんずうをはしり
とりふはるべしとおかせてまつまとば
はなかよりくゆきめそとれをえをの
はちをはしりてきあそはいとせるひ
屋をるかこまつくれとりとつまと
弧のをきようちあひあををはしり

うりしとりせるひうとはしりはあを
み頼朝だりれとそはなかのすうり
とりいるさせるひつとあるうりん
てふくとはいりうるとふ一年
りのこをせるひふりやとはれ
まとてなけせるひつとりり
屋をとはなかとはしるとうり
すをはなかとあ一定
をはしりてををはしりて
あひりいそくはをつけるはし
りとりをはいりりとをんや

[illegible]くらんとおもはゞ[illegible]
いまゝさらびおうるづさくそせ
きけるあけくまて大[illegible]
いるゆゑして出[illegible]
けるいとゝ[illegible]
[illegible]毎月[illegible]ま病とけてうまに
つるくとそいとゝ海ゆてそれうる
へるりうりむきよい藤原まで
うりをうりをもうそうりゆゝと
れるれうきやうよりてそれうる
へるりうりわうりうなめう

まつびんこうとそうれ
けるうりるよ伊豆国ちうこうの
ふれるときもう伊勢小系三百じ
うそもうりうりうりて廿一年月星
[illegible]とうり治暦年のうれうる
むりんうもう[illegible]よ辛亥とうれば
天下とうふうこうりうりうりう
果就のそこに人とびめうよう
こうふうこうこの人あうびうこそ
けるうりまれよこれいうこの子
うるうるく成人してあふうり

十四ちりごいごとりあり[illegible]
るまりて金屋(かなや)とそ[illegible]
あ[illegible]人[illegible]
[illegible]のちよい信濃郡よりてあき
のわつ[illegible]
[illegible]十[illegible]
是しは[illegible]
けつ[illegible]人は[illegible]
[illegible]下養和元年[illegible]
[illegible]
[illegible]

兵衛佐のもとへこそうれだいて
ちゝつくそしるつまうちのびろゝ
元暦元年三月富士のうらびろゝ
のあり　れるの伐なとして京都よ
りうあるとちたつ摂津国一石
ゆて平氣とうせん　平氣とう
ちまるがへみやこるのがり同年八月
うつ大蓮尉　ゆて使宣旨
かしもり九月十日大まの尉さま
つと九郎判官とびりけり同年四月
十日西へうこ二月廿日ちつゆ

堤浦うんびの四ゆて御ふ平氣ゆ
ろうが果くうう二藏して毎のかと
ゆよおくゆうとしかすもの世る
ろうがそんとろうがしどそんとる
石政入道しれりひうきうん物と
びりけりあるあるゆ使ゆうさ
うんなるゆるるすびゆろうとの
ゆうりうくうう氏ゆ

平治物語下終